



Photo by Norio Kidera



伊勢丹新宿店では、11月9日（水）～11月15日（火）の期間、本館1階＝ザ・ステージにて、『Barabara Lovers. MARUNI COLLECTION with minä perhonen』を開催いたします。

伊勢丹新宿店の特別企画として、広島の家具メーカーマルニ木工が、minä perhonenとともに、2013年、2015年と開催してきた特別展「ふしとカケラ」。大量生産社会の中で、均一した仕上がりが求められるがゆえに、これまでほとんど使われてこなかった特徴的な木目や端材に再注目し、それらの素材を個性的な美しさにとらえ、ふしのあるHIROSHIMAアームチェアに、minä perhonenのカケラのパッチワークの座面を組み合わせたスペシャルアイテムを発表し、大きな話題を集めてきました。本展では、「ふしとカケラ」の第3弾であるとともに、HIROSHIMAアームチェアの皆川明氏プロデュースによる限定カラーバージョン(全5色)や、深澤直人氏デザインによるRoundishソファに、今年のミラノサローネで、デンマークのテキスタイルブランドKvadrat社から発表された、新作テキスタイルAkira Minagawa for Kvadratコレクションをパッチワークしたアイテムが加わり、より個性的で表情豊かなアイテムが揃っております。

インテリアが単なる道具ではなく気持ちを交わす叙情的な存在として暮らしに融け込むこと。様々な異なる要素が集まることで愛着を生む存在になることを本展のタイトルである『Barabara Lovers.』に込めた皆川氏。

暮らしの中に愛着のあるものをひとつずつ増やしていく豊かさ、愛着のあるものが溢れるインテリアには、そこに暮らす人それぞれの個性が宿り、日々の生活をますます楽しく、豊かに彩ってくれるはずです。

【コンセプト】

インテリアは共に暮らす仲間のような存在であってほしいと思います。

愛着とは、その物の「欠点」を愛してあげる事から始まる。これは初めて「ふしとカケラ」をスタートした時に実感した思いです。自然物が時の中で刻んだ痕跡を、物の欠点として見るのではなく、その痕跡に思いを馳せ、むしろ愛着の証にする。その心持ちは私たちの物への愛情として自然であり喜びを生むものである事に、このプロジェクトで気づきました。その延長線上では、私たちがそれぞれ固有の存在としてあるように物もそうであって良い、という寛容な想いに辿り着きます。金子みすずの「みんな違ってみんないい」の詩のように私たちは固有であることで認め合い愛し合っているということを感じたいと思いました。



Photo by Norio Kidera

【ITEM】

ふしとカケラ

素材：オーク、ウォルナット（ふしあり）
 パッチワーク：4パターン（minä perhonen）
 価格：オーク 148,000円（税抜）
 ウォルナット 161,000円（税抜）
 限定：オーク 70脚、ウォルナット 30脚 計 100脚

Roundish ソファ パッチワークシリーズ

素材：ビーチ
 パッチワーク：Akira Minagawa for Kvadrat
 価格：シングルシートソファ 315,000円（税抜）
 ツーシーターソファ 490,000円（税抜）
 スリーシーターソファ 580,000円（税抜）
 オットマン 82,000円（税抜）

※ 期間限定（受注生産）

今回のカケラは、「Barabara Lovers.」にちなんでバラの花をモチーフにしたパッチワークになっております。
 Roundish のソファには、抽象絵画を思わせる美しい色の組み合わせが日常を彩ります。

【展示概要】

タイトル：『Barabara Lovers. MARUNI COLLECTION with minä perhonen』

会 期： 2016年11月9日（水）～11月15日（火）

会 場： 伊勢丹新宿店本館1階 = ザ・ステージ
 東京都新宿区新宿3-14-1 tel.03-3352-1111（大代表）

【PRESS CONTACT】

□株式会社 三越伊勢丹ホールディングス 宣伝部（伊勢丹PR）担当：佐和 千晶 03-3225-2474 sawa_chiaki@imhds.co.jp

□デイリープレス 担当：川村美帆 03-6416-3201/090-4063-3081 mihokawamura@dailypress.org

ふし



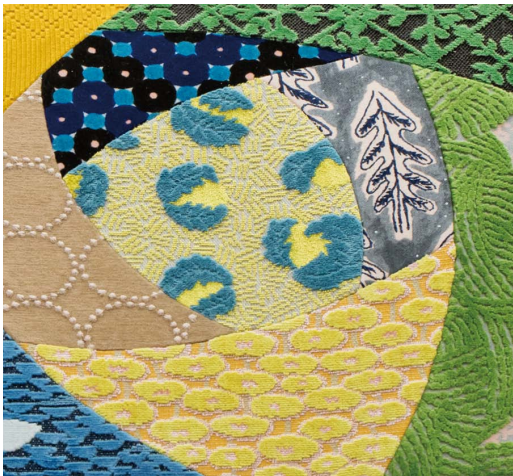
節(ふし)とは、板の表面に現れる枝の断面です。樹木の外観に枝の跡形が全くない場合でも、幹の中には成長時の枝が包み込まれています。

この幹に残った枝が木を加工した時に節として表面に現れます。

節は大きく分けて、生節(いきぶし)と死節(しにぶし)があり、枝が生きたまま包み込まれたものが生節で、木目に溶け込んでいます。枝が枯れてから包み込まれたものが死節で、色は黒っぽく周囲とのつながりがないため欠けたり抜けおちたりすることがあります。

マルニ木工と伊勢丹新宿店は、この節は木が生きてきた証として、本来であれば世に出ることのない節ありの家具を、より個性あるHIROSHIMAアームチェアとして2011年に伊勢丹新宿店にて特別販売を行いました。

カケラ



カケラとは、ミナ ペルホネンのオリジナルテキスタイルの裁断した際に出るはぎれなどの余り布のことです。青山にminä perhonen pieceというカケラ(ピース)を集めたショップもあり、洋服を仕立てたオリジナルテキスタイルの残り布をパッチワークして、手作業によりアーカイブラインの洋服に新しい彩りを添えたり、バッグや小さなものを生み出したりしています。

ふしとカケラでは、2013年、2015年と各3パターンずつのカケラの座面の作ってきました。Barabara Lovers. では、バラの花をモチーフにした4パターンのカケラの座面をご紹介します。